グループ発表および講評

# 【前半】

# テーマ①：市民懇談会を「市の政策づくり」や「地域づくり」に活かすには…

**＜A グループ（中山道）＞**

市民懇談会を実施するにあたっての課題について、いろいろな意見が出され、いくつかのカテゴリーに分けた。「地域や学区ごとに抱えている問題や意見が違うので、地域性を出すにはもう少しコンパクトな懇談会をする必要がある」や「幅広い年代の参加、まちづくり（ボランティアや市民活動）に参加していない人の声をどうやって拾い上げるか、その手法を考える課題がある」「定期的な開催を継続していく必要がある」といった意見があった。他にも会場へのアクセスに関して、「高齢者を配慮した場所の問題や交通手段の問題も多くある」という意見もあった。

一番多く、声が大きかったのは、市民懇談会を開催する意味や目的について「従来から名前は違うけれど、市民懇談会のような集まりはたくさんあったが、多くの意見が出ても結果的に市政にどのように反映されて、具体的な施策として活用・具現化されたものがあるのか」ということ。結果的に「市民の声が活かされていない」という結論が出てしまった。「市民の意見を聞くだけで終わらせずに、継続していくことで、より良い懇談会になっていくのではないか」ということ。

**＜B グループ（ホタル）＞**

まとめきれなかったが、出された意見を紹介したい。バスのオンデマンド化などについては、市でも市民への説明をされてきたと思うが、「やることが決まってから市民に伝えている」という意見があった。防災マップについても、誰のためにというわけではなく、「『作りました、できました』という説明の仕方で、本当に市民の声が反映されているのか」という意見があった。市から市民懇談会の案内があったが、それぞれの団体や立場で意見を持っている人と、軽い気持ちで座談会のつもりで何を話したらいいか分からない人がいる。そのため、「公募で参加した人と、無作為で選ばれた人は分けてもいい」という意見があった。また、「ボランティアをされている人がいる中で、うまくコーディネートできずに、市の中で循環してない」という意見もあった。市民懇談会の実施時期については、「夏祭りなどのイベントに合わせて実施することで、多くの人に知っていただける」という意見があった。このグループでは、「施策を決めるときには、前もって市民の声を聞いてほしいし、

今はあまり反映されていない」という意見を中心に議論された。

**＜C グループ（菜の花）＞**

このグループでは、「小さい単位で意見を集める」ということに集約された。具体的には、参加対象者を無作為で選んだことは、今までに参加しなかった人が参加できるという点では良かったが、選ばれた人のカテゴリーが不明なので、誰かが出てくれるだろうということで、結果的には７人程度で少なかった。これが「専業主婦の代表」であるとか、「ワーキングマザーの代表」「定年退職した人の代表」といった「細かいカテゴリーの中で選ばれたことを伝えると、責任感や出席する意義を感じて参加してもらいやすくなるのではないか」ということになった。

開催する場としては、知らない人同士の中で意見を言うのは難しいので、「自治会単位、学校単位、保育園の保護者会単位など小さい単位で意見を出し、意見をまとめる場を作ったらどうか」という意見になった。

時期や時間帯については、スウェーデンなど福祉国家では、土曜の夕方など出席しやすい時間帯で開催している。冬で寒かったり、夏暑かったりすると行きたくなくなるかもしれないので、「４～５月の暖かい季節や、秋の気持ちのいい季節に合わせて開催したらいいのではないか」と考えた。

「守山では小さなお祭りがたくさんあるので、その中で意見を集める機会をつくったら、顔見知りからも意見が聞ける」という意見や「ツイッターなど、若い人が使いやすいツールを使って意見を集めると、今までなかった層からも意見が集められる」と考えた。

最後に大事なこととして、「集まった意見が市政に反映されたということが分かること」が挙げられ、そうでないと意欲が湧かないということ。広報を使って、「市民懇談会でこんな意見が出て、この意見が採用された、この意見は検討中」という説明があれば、意見を言えば検討の対象として扱われると考えてもらえるし、次の参加にもつながると考えた。

**＜D グループ（メロン）＞**

これまで発表のあった内容と同様の意見がグループ内でも挙げられた。このグループでは、「市民懇談会とは何か？」が話し合われた。「テーマがあまりにも大きすぎて、捕まえどころがない」という意見だった。「明確に理解しないと、話が進まない」という意見が多かった。ほとんどそういった議論であった。

「この懇談会だけで終わらないようにしてほしい」という意見や、「これまでいろいろな形で市民懇談会が行われたが、それがどう反映されたかさっぱり分からない」という話が出た。市長の考え方などもあったのだと思うが、その辺りが市民に浸透していないということだった。

私は今日の市民懇談会で、このようなことをするとは思っていなかった。話を聞いて、多少意見も言って、いろんなことができると思ってはいたが、このような形とは思ってもみなかった。そういう人はグループにも何人かいた。前もって資料を配って、意見をまと

めておいてほしいとか、こんな形でやるという説明をするという配慮があってもいい。そうすればもう少し議論が前に進んだのではないかと思う。何もなくて突然意見を聞く方が良いのかは、いろいろな議論があるかと思う。

「市の政策は市が先に考えるのがいいのか、市民が先か、どっちがいいか」という話もあった。この市民懇談会は、今日の議論を踏まえて年明けにもう一回開催するという話があったが、「何回か連続して開催して、自分たちの意見が前に出るように、線香花火ではやめておこう」という意見になった。

**＜E グループ（妙蓮）＞**

グループで出た意見を５つに分けた。開催時期については、「休日の昼間だと時間が合わない人がいるので、あまり忙しくない時期に、金曜の夕方や午前中などいろいろな時間帯で行うのがいい」という意見や、「政策を考えるときに開催するのがいい」という意見があった。

周知方法については、「インターネットや掲示板、回覧板、広報などたくさんの方法」が出たが、「実はどの方法でも行われているが、それが市民の目に触れていない」という意見にまとまった。市民懇談会に参加してもらう仕組みとして、「今回は広報にお菓子やオマケのお得感が書かれていなかったので、もし書いてあれば参加者も増えていたのかもしれない」という意見もあった。他にも、「若い人が参加しやすい形でやるのがいい」や「マスコットキャラクターを作ったらどうか」という意見もあった。

市民懇談会の位置づけとして、「市民懇談会は市民を代表しているのか、もう少し具体的な事例がないものか」という意見。守山市自体の課題として、「焔魔堂近くの市の公園の遊具を充実したらどうか」「自治会館をもっと利用したらいい」などたくさんの意見があった。

最終的には、「市民懇談会の位置づけが分からないから参加しない人が多く、様々なＰＲをしても目に触れない」という課題が見つかった。

**＜講評（只友部会長）＞**

市民懇談会自体がどのようなものであるか、皆さんが今経験されているものが市民懇談会そのものです。これまでも市民の声を聞く機会はいろいろとあったと思いますが、ここでの議論をどのようにフィードバックしていくかが課題になると思います。今日は出された意見を記録して、資料として残します。整理された意見は、市民参加と協働のまちづくり推進会議や検討部会で資料として取り扱い、具体的な制度として練り上げます。その具体化された制度を１月に皆さんに再度議論していただくという流れになります。今までは意見を言っても、その後どうなったか分からないままに終わったという経験が多かったと思います。これからは、委員会で検討された具体策や資料は、これまでのように最終的にまとまった１つの案だけではありません。複数のパターンを出して、それらを皆さんで考えてもらうということをします。

今日のところは、市民懇談会について事前の資料配布はありませんでしたが、次回は恐らく事前に説明をして資料の配布ができると思います。また、話し合いの時間が短かったと思われたかもしれませんが、この話し合いの形式が生まれたドイツでは、３日間行われます。日本に入ってきたときには、それを１日とか半日になっています。そういったことも含めて、これからいろいろと実験をして、守山にはどうやったら根付くかを考えていきたいと思いますので、またご意見を頂ければと思います。